

No title available**Publication number:** JP50120802 (U)**Publication date:** 1975-10-02**Inventor(s):****Applicant(s):****Classification:**

- international: *B65D3/22; A23L3/00; A47G19/23; B65D21/00; B65D81/34; B65D81/38; B65D3/00; A23L3/00; A47G19/22; B65D21/00; B65D81/34; B65D81/38; (IPC1-7): B65D21/00; A23L3/00; A47G19/23; B65D81/34*

- European:

Application number: JP19740027962U 19740312**Priority number(s):** JP19740027962U 19740312

Abstract not available for JP 50120802 (U)

.....
Data supplied from the **espacenet** database --- Worldwide

⑥Int.CI²

B 65 D 21/00
A 47 G 19/23
B 65 D 81/34
A 23 L 3/00

⑦日本分類

132 A 23
129 B 2
34 A 133

公開実用新案公報

序内整理番号 6830-38
6643-21
6580-49

①実開昭50-120802

④公開 昭50(1975).10.2

審査請求 有

⑤容 器

⑥実 願 昭49-27962
⑦出 願 昭49(1974)3月12日
⑧考 案 者 雨宮浩
東京都板橋区上板橋2の14の5
⑨出 願 人 富士紙器株式会社
東京都板橋区上板橋2の13の1
⑩代 理 人 弁理士 嶋宣之 外1名

⑪実用新案登録請求の範囲

下周部に對して上周部の径を徐々に拡大し全体

としては錐形をなす容器において、その容器本体の内壁面下側部周間に突部を設けてなることを特徴とする容器。

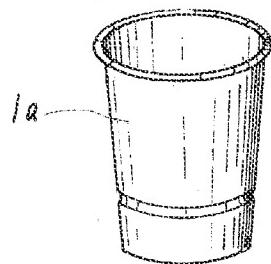
図面の簡単な説明

図面第1図は容器本体と波状紙とを分離して示す斜視図、第2図は容器本体に波状紙をはめ着けた状態の縦断面図、第3図は同上のI—I線断面図、第4~7図は他の実施例を示すもので、第4、6図は容器本体の斜視図、第5、7図はそのII—II線、III—III線断面図である。

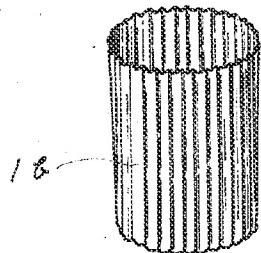
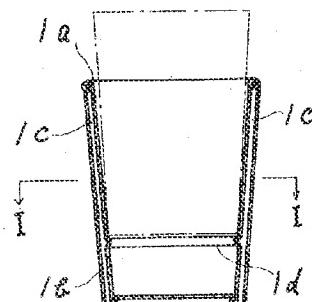
1a, 2a, 3a……容器本体 1d, 2b,

3b……突部。

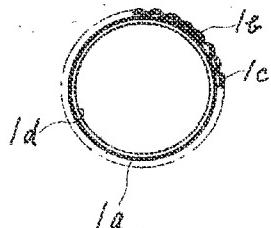
第1図



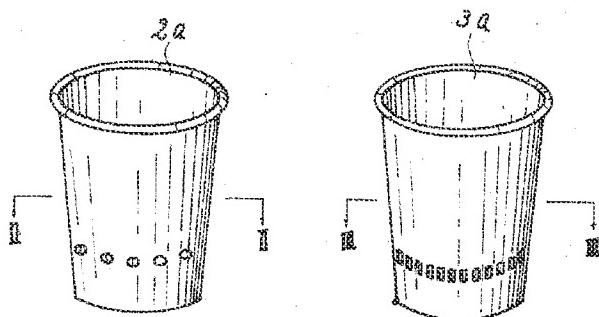
第2図



第3図

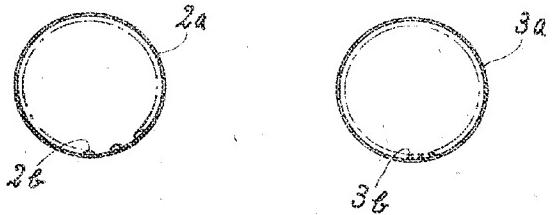


第4圖



第6圖

第5圖



第7圖



实用新案登録願

49. 3. 12

昭和 年 月 日

特許庁長官 斎藤英輔 殿

1. 考案の名称 審査

2. 考案者

住 所 東京都板橋区上板橋2丁目 / 4番5号

氏 名 兩宮 浩

3. 実用新案登録出願人

住 所 東京都板橋区上板橋2丁目 / 3番1号

氏 名 富士紙器株式会社

代表者 兩宮 浩

4. 代理人

東京都豊島区南池袋2の8の17号 / 豊南ビル602号

住 所

Tel (085) 7605~9

氏 名

(7616)弁理士 鳥

宣之外7号

5. 添付書類の目録

(1) 明細書 1 通

(2) 図面 1 通

(3) 領書副本 1 通

(4) 委任状 1 通

(5) 審査請求書 1 通

審査
番

特許庁

49. 3. 12

出願第二課
馬場



明細書

1 考案の名称

容器

2 實用新案登録請求の範囲

下周部に対して上周部の径を徐々に拡大し全体としては錐形をなす容器において、その容器本体の内壁面下側部周間に突部を設けてなることを特徴とする容器。

3 考案の詳細を説明

全体として錐形をなす容器は、通常は一方を他方にはめ込み、幾重にもして運搬あるいは収納するものであるが、その運搬途中の振動等により、上記一方の容器が他方の容器に深く入り込み、それを抜き取るのに困難を來すことがあつた。特にそれが紙容器あるいは発泡スチロール製容器等のように、容器本体が柔軟なものについては、深く入り込んだ上記一方の容器を無理して抜き取ろうとすると、当該容器を破損したりするものである。また幾重にもした容器を機械にかけ、それに所要のたとえばインスタ



ント食品を連続的に充填しようとするときに、深く入り込んだ上記一方の容器を機械操作で抜き取ることができます。ひいては上記食品等を機械的に連続して充填しえないという欠陥を解消するものである。

この考案は、上記の点に鑑みて案出したもので、容器本体の内壁面下端部周囲に突部を設け、一方の容器を他方の容器にはめ込んだときに、その一方の容器の下縁が他方の容器の上記突部に係合し、それ以上深く入り込まないようだけしたものである。

以下ではこれを図示の実施例について説明する。

ガ1～3 図に示した容器は、熱湯を注いでそれをすぐに持つても手に熱さを感じないように配慮した紙容器である。

すなわち、下周部に対して上周部の径を徐々に拡大し全体としては錐形をなす容器本体 / a の外周に、凸部と凹部とを交互に形成してなる円錐状の波状紙 / b をガ2 図に示すごとくはめ



書けてなるものである。これによつて波状紙／bの内側においてはその凸部と容器本体／aとが相まつて形成される空隙／cが断熱効果を發揮するとともに、波状紙／bの表面においてはその凹部に指が接触しない換言すれば指の接触面積が少なくなり、したがつて熱湯を注いですぐ当該容器を手に持つても全く熱さを感じないものである。

そして、上記容器本体／aには、その内壁面下側部周間に、環状をなす1条の突部／dを形成している。この突部／dは容器本体／aの外周を凹陥して形成しているものである。

しかして、上記した容器の多數を、一方を他方にはめ込むようにして幾重にしても、一方の容器の下縁がオ2回鎖縫で示すごとく他方の容器の突部／dに係合し、それ以上深く入り込むことがない。

波状紙／bをはめ着けた上記実施例の場合には、突部／dがないとその波状紙／bの凸部を押し潰すようにして一方の容器が他方の容器に



入り込み、それこそその抜き取りが困難となるが、突部1aを形成した上記実施例においては、かえつてその波状紙1bが突部1aとよく係合し、当該容器が深く入り込むのを防止することになる。

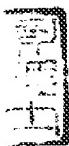
ただ、この考案において上記波状紙1bは必須要件ではなく、それを容器本体1aにねじつけていきものにおいても、その効果を充分発揮しうるものである。

また上記突部1aは、一方~~容器~~⁽³⁾を他方の容器~~に~~⁽³⁾はめ込むと~~よ~~⁽³⁾く、一方の容器の下端に係合しうるものであれば、その形状は問わない。

たとえば、**~7図に示すごとく、容器本体2a、3aの外周を断続的に凹凸して、その内壁面に突部2b、3bを一定間隔毎に形成してもよく、さらにはそこに凸部と凹部とを交互に形成して断面波状にしてもよいものである。

特に容器本体に波状紙1b等をはめ着けず、その容器本体それ自身のみで容器を形成するようとした場合に、**~7図に示すものは、意





匠的な効果も發揮することになる。

以上の説明から明らかのように、この容器の容器によれば、それらの一方を他方にはめ込み、幾重にもして運搬あるいは収納しても、上記一方の容器が他の容器に深く入り込み、それを抜き取るのに困難を來すという憂いは全くないものである。

4 図面の簡単な説明

図面①～図は容器本体と液状紙とを分離して示す斜視図、②図は容器本体に液状紙をねじ着けた状態の縦断面図、③図は図上のI-I線断面図、④～⑦図は他の実施例を示すもので、⑧、⑨図は容器本体の斜視図、⑩、⑪図はそのI-I線、II-II線断面図である。

1 a, 2 a, 3 a … 容器本体、1 d, 2 b,

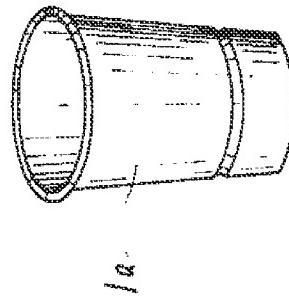
3 b … 突部

実用新案登録出願人 富士紙器株式会社

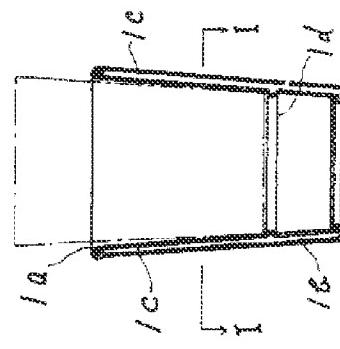
代理人弁理士 鳥 実之

ほか／名

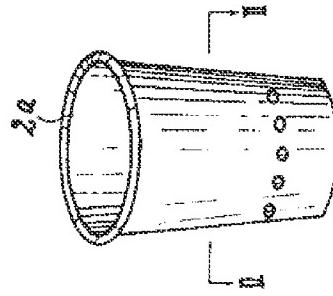
第1圖



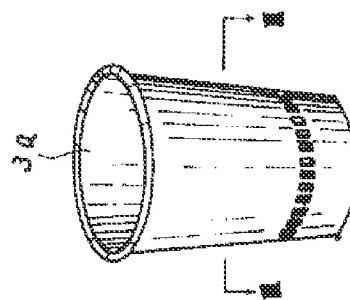
第2圖



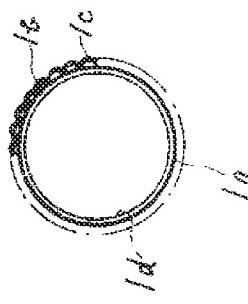
第4圖



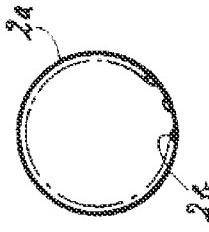
第6圖



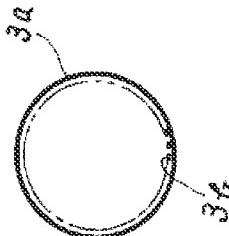
第3圖



第5圖



第7圖



1000

2
三
五
九

△ 前記以外の代理人

東京都豊島区南池袋2-8-17 オカサ南ビル602号

(7728)弁理士 丸 山

